

# 農がつくる健康市場

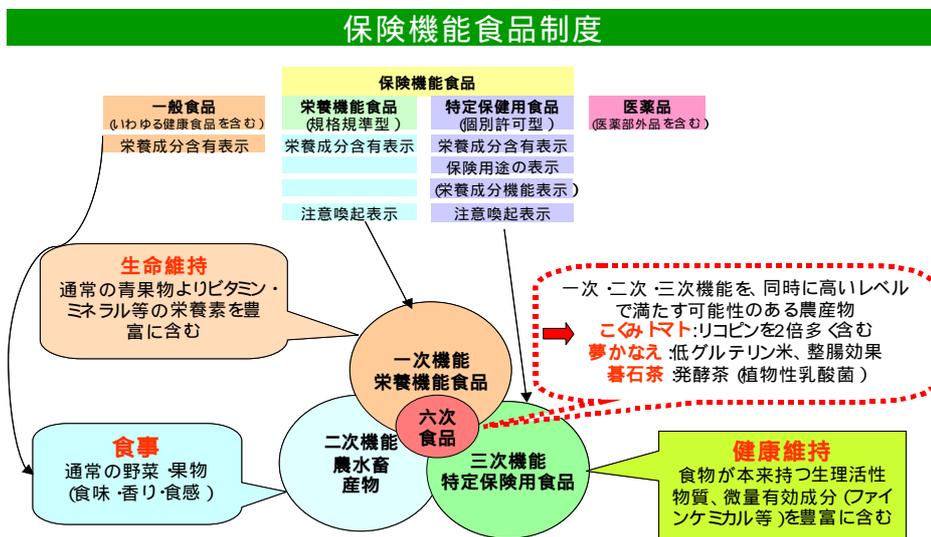
～日経ヘルスカンファレンス (平成19年11月9日、於：目黒 雅叙園)

今後の健康・美容市場、消費者動向を議論する場として、‘日経ヘルスビジネスカンファレンス’が開催された。特別講演として三菱商事国際戦略研究所栗原康剛氏の「価値創造する農業～健康・文化・自然価値と産業連携」,「農業がもたらす文化価値～野菜ソムリエが伝える農産物の魅力」のテーマで日本ベジタブル&フルーツマイスター協会福井理事長の講演があり、他にも幅広いテーマで講演・展示・意見交換が行われた。

日本ベジタブル&フルーツマイスター協会福井理事長は、商社で初めてオーガニック部門をつくり、その後独立して「食を通じた感動を」を理念に同協会を設立。モデルの長谷川理恵さんが取得したことで注目された、「野菜のソムリエ」の資格を世界で初めて設けることで「畑から食卓までマネージできる」人材育成を目指している。さらに野菜と果物のおいしい食べ方を提案する「野菜ソムリエ」のいる新しい八百屋さん「E f :」(エフ)を、都心を中心に展開し野菜の流通まで変えようとしている。更に、生産分野に「会社」という組織と仕組みで参入し、これまで顧客の視点から見れば非合理がまかり通ってきた分野に、顧客志向性と合理性を導入して顧客に高いバリューを提供している。従来の様に「なんとなく」野菜を店頭に並べることはせず、在庫と回転率を考えて、今までのような消費者を見ない生産者・流通のシステムの現実を、何とか変えていこうとしている。

## 農産物の健康機能やデトックス (detox)が注目される

食品は、生命の維持のための一次機能、食事を楽しむために嗜好・感覚面の働きをする二次機能、さらに三次機能として健康維持のために生態調節機能がある。一次、二次、三次機能を二つ、三つ同時に満たす食品は六次食品とも言われる。例えば栄養成分の含有量を増やした、機能性を強化・添加した果菜。旨みの成分のグルタミン酸やリコピンを普通のトマト



と比較し二倍含むカゴメの「こくみトマト」や、低グルテリン米「ゆめかなえ」などがある。グルテリンというタンパク質含有量がこれまでの低グルテリン米より三分の一と低く、食味が数段よく整腸効果もあるようだ。また、日本で唯一の後発酵茶「碓石茶」、2回の発酵と漬け込みで茶に含まれる植物性乳酸菌の働きで免疫力、代謝力アップなどの生理活性作用が認められている。その他、野菜や果物の栄養分を丸ごと濃縮したサプリ、天然みかんの「皮ごと丸ごと」サプリがある。

また、最近癒しや心のケア、デトックス=解毒・体内浄化がブームである。足りない栄養分を補給するのがサプリメントなら、逆に取り過ぎていているものを取り除くのがデトックスである。デトックスとは体に溜

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

まった毒素を排出する、つまり身体の中の老廃物や有害な物質を排出して大掃除するということをいう。私たちをとりまく衣食住の様々な分野で農薬や添加物、シックハウスなどの化学物質が使用され、知らず知らずのうちに環境汚染等が広がり、有害物質を体内に取り込んでいる。8割以上の人が、心に溜まった「毒」、ストレスや将来の不安、人間関係などなんとなく身体の中が汚れているような気がすると感じている。このような心のデトックスや、身体の代謝を良くする、血の巡りを良くするお茶、“身体巡り茶”という商品も発売されている。野菜や果物、豆類・海藻類・魚介類など、幅広い食べ物にデトックスに役立つ成分は含まれている。農産物、地域資源の活用で新たな健康市場が見えてくる。

## 海外肥料原料高騰 (前号から続き)

**窒素質** 天然ガスの高騰は、尿素・アンモニアの生産コスト上昇をもたらす一方、世界の尿素需要は発展途上国を中心に今後も年6%程度の割合で伸びると予測されていることから、窒素質肥料は強含みに安定した価格で推移するとの見方が大勢を占めている。数年前まで尿素輸出に旺盛であった中国(世界の尿素生産量の約4割を生産)では、牛肉の消費の増加に伴い飼料用穀物の消費が伸び、国内需要優先策を取っている。昨年同様、施肥シーズン中は尿素的輸出を抑えるために30%に上げていた輸出税を10月以降、15%に引き下げたが輸出に廻る数量が少なく、実際の輸出価格は殆ど下がっていない。

**燐酸質** 年初の燐安高騰の背景は、インドでの燐酸液史上最高値の成約に続き粗原料であるリン鉱石サプライヤーの強行な値上げ方針にある。これは需要増加に加え供給側での生産調整に起因する。燐安メーカーの寡占化の流れは、燐鉱石の90%が6カ国、その内70%が3カ国(米国、中国、モロッコ)に集中している事による。この3カ国では国内需要増・輸出余力減の状況展開を見せているが、更に、燐鉱石としての販売(輸出)から、燐酸液・燐安といった付加価値品としての販売(輸出)にシフトしていることから、供給量の不足が深刻になってきている。世界最大の燐鉱石サプライヤーであるモロッコは、今回のTFIにおいて、来年前半の燐鉱石FOB価格を現在のFOBを3桁の値上げとする旨、通知を行った模様である。中国も燐酸資源のナショナリズムを強め、DAP及び燐鉱石に対し引き続き20%の輸出関税を負わせている。

**加里質肥料** 2007年度の加里質肥料の需要量は中国で最大130万トン、ブラジル130万トン、米国130万トン、インド70万トン、その他アジアで50万トン程度伸びると予想されている。また主要作物価格の上昇により加里質肥料に対する需要が高まっている。一方旧ソ連では、昨年11月に起きた洪水の為、2007年は約130万トンの塩化カリ生産計画を減らしている。北米の加里需要もブラジル同様に著しい需要の伸びが予測されており、2008年の価格は、07年比40-50%の値上げもあり得ると観測されている。



先月、当社のバケツ稲の収穫作業をしました。根を付けたまま土を払い観察したところ、バケツの中いっぱい根が絡み合っていました。苗は真ん中に3本植えて1株、周りに4本の計7本を植え中心の1株の収量調査をしました。結果は穂の数が21本、籾の数が1,178粒で、普通の田んぼ(平均で1,700粒程度)に比べると劣りますが、たった3粒の種籾が約393倍に増えた事になります。また、籾摺り後は、ほとんどの玄米に高温障害である乳白がみられました。これは今年の夏が猛暑であった上に、当社の屋上はコンクリートの為照り返しがきつかった事が原因と思われます。来年は質・量共にもっと良いものを目指したいと思います。有難うございました。(農産部 草野)



先日、紅葉を見に出掛けました。温暖化の影響か、例年よりも色づきは遅く、色あせが早かったようです。となると、見頃のタイミングが難しいですが、平野部はこれからが見頃。是非、足を運んでみてはいかが？



編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp